

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091800072		
法人名	株式会社 イーホーム		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ハピネス岩出		
所在地	和歌山県岩出市森259-1		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族様のご要望やご意見を常に受け止め、どのような場合でも従来の枠組みにとらわれず迅速かつ柔軟な対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者には介護の困難な人が多いと見受けられるが、職員は利用者に関わり添って意思を尊重しながら真摯に対応している。家族会をもったり、運営推進会議やホームの催し物への参加、利用者と一緒にドライブに行くなど家族と緊密な連携が図られている。利用者に対する職員の担当制がとられ、職員は利用者の状況をよく把握しており、これが介護計画にも活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会議にて話し合いの機会を持ち、職員一同が理念の理解と実践への共通認識を持って業務に臨むよう、意識の向上に努めている。	「人を大切にし、人を幸せにする施設」であり、利用者・職員・周辺の人々を幸せにする施設を目指しますという趣旨をホームの理念とし、1・2階に掲げ毎月の職員会議でも確認し、管理者・職員は理念を念頭に置いて日々の業務を行うように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	岩出市の敬老会や地域のお祭りに参加。演芸観賞や体験工作等にも参加。 玄関前の花壇やプランターに花を植え、通りかかる方々にも楽しんで頂き、温かい言葉を頂きます。 入居者も挨拶を交わされ、顔見知りになられる。	岩出市の敬老会や近くの根来寺の祭り、演芸の鑑賞や体験工作にも参加し地域の人々と交流している。また玄関前の花壇やプランターに花を植え、通りがかりの近くの人々と挨拶を交わし顔見知りになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアに来所頂き、入居者もレクリエーションに参加される。定期的に交流を持ち、認知症の理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の開催。 取り組んでいる課題について報告・ご意見を頂き、サービスの向上に活かせるよう努めている。 ご家族と一緒に参加される入居者もおられ、出席者の方々とお話をされる。	運営推進会議は、3か月に1度開催しており、ホームの活動状況を報告し参加者から意見を出してもらい、出された意見はサービスの向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、日頃の様子を報告。 助言を頂いている。	市町村担当者に運営推進会議の委員になってもらっており、ホームの実情やケアサービスの実態を報告し助言してもらっている。それ以外でも空き状況を聞かれたり、事故報告をするなど連携がなされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関のある1階に職員の目が届きにくく、安全を確保できない場合に限り、玄関の施錠を行っている。	代表者・職員は身体拘束を禁止する趣旨を理解しており、身体拘束をしないケアを心掛けている。ただ建物の構造上1階の玄関に職員の目が届きにくく、玄関を出ると車の通行が多い道路なので、安全を確保できない場合に限り施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で、日々のケアについて話し合い、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者がおられ、後見人様にご意見を頂きながら勉強の機会を設け、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に理解して頂けるように説明・確認した後に、書面にて同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不定期に家族会を開催。また、施設でのお祭りや遠足等の外出行事をご案内し参加して頂き、ご意見やご要望を伺える機会を設けている。	不定期であるが家族会を開催しており、またホームでの催し事や外出行事に家族も参加してもらい、意見や要望を聞く機会をつくっている。出された意見等は利用者に関するものが多いが、検討の上できることは実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や報告書にて、職員それぞれが意見や提案を出して話し合い、サービスの質の改善・向上に向けて取り組んでいる。	職員会議の席上や、月末に書く報告書で職員はそれぞれ意見や提案を出し話し合っている。提案のあった事項は検討の上取り上げ実施してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や取り組み・実績を十分に把握し、それをもとに向上心を持って働けるよう配慮している。職員から提案のあった事項には可能な限り応じ、設備の充実を図り職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の実践力を身につける為、研修会への参加を促し、報告会にて発表。職員全体が、正確な知識と技術を身につけられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、情報交換や施設訪問の機会を得る。催し会にもご招待頂き、入居者と共に訪問させて頂く機会があり、その活動を通してサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除くよう何事にも共感し、よりそうように心がけている。本人の想いを理解し、安心していただくことによって、良好な関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、不安なこと、要望等について話し合い、信頼関係を築いていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や、ご本人様のお話を聞きながら、必要な支援を見極め、医療機関などとも連携して対応を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様に喜怒哀楽を共にするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員皆で情報を共有し、家族様と密に連絡をとりながらご希望や相談を伺い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援や電話連絡などをこまめに行い、関係が途切れないように努めている。	利用者が馴染みの人に手紙を出したり電話で話すことを支援している。また、馴染みの美容院や喫茶店、公園等、近くであって家族が連れて行けない場合は、一緒に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活を把握し、お互いに仲良く支え合えるよう、職員が間に入り、見守りながら、より良い関係が築いていけるよう支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も家族様と連絡を取り合い、経過をうかがったり相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の悩みや思いには絶えず耳を傾け話し相手になるよう努めている。	話し相手になって一人ひとりの思いや希望・悩みなどを聞いて把握するようにしている。困難な場合は家族から本人の過去の生活歴等を聞いているのでそれを参考にし判断するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やご本人から過去の暮らしや生活環境について把握することができるよういろいろな話を聞き取りコミュニケーションの中から詳しく知り理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活の流れを把握して、一番適した取り組みを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々々の課題に対処しつつ起こった出来事を皆で検討し、家族様や専門機関にも相談しながら現状に適した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、職員が日ごろ担当している利用者の状況について話し合い、家族の意向を踏まえ、医療機関とも相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に記入し、共有した情報をもとに改善点を見出し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に配慮しながら、可能な限りの地域の催し物の参加や外出希望など柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	過去の暮らしや生活環境を把握し、一人ひとりの持つ力を発揮し、生き生きと生活して戴けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族が希望する主治医での受診を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族が希望する従来のかかりつけ医やホームの協力医療機関での受診を支援している。診察には家族や職員が通院の付添いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な方には、特別指示書にて訪問看護を受けたり、健康相談し、一人ひとりに合った受診や看護を受けられるように支援してしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心して治療して頂けるように度々訪問し、早期退院に向け主治医と相談し、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を伺い、事業所でできることを説明し、方針を共有し希望に添った生活をして頂けるよう努めている。	重度化したときや終末期をどうするかについて、ホームで看護職員がいないことや設備的に対応できないことを説明し、本人・家族と話し合い、希望に沿えるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や急変時の対応をスムーズに行えるように、日頃からスタッフ会議や講習などで定期的に訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者様を含めた避難訓練を行っている。	災害に備え年2回、日中・夜間を想定し避難訓練や消火訓練を行っている。ただ地域との協力体制は築かれていない。	ホームと近隣とに若干の距離があるが、災害はホームだけの問題でない。ので、運営推進会議の地域代表を通じて等、災害時の協力の働きかけを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思や人格を尊重し、プライバシーを守り自尊心に配慮した声かけを心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重しており、誇りやプライバシーを損なうような声かけや対応は見受けなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての場面において利用者様の要望に傾聴し、希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、体調にも配慮し、希望にそって過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容サービスを利用し、ご希望の方には当所で毛染めを行い、衣類はご本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付けを職員と一緒にを行い、職員も同じテーブルを囲み楽しく会話をしながら食事をしている。	利用者で出来る人は野菜の皮むきなどの調理、盛り付け、下膳などの後片づけを手伝っており、職員も一緒に食事している。料理はよく工夫し美味しく作られており、季節にはベランダで育てたトマトやきゅうりなどを食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量の記録を行なっている。摂取量の少ない場合はゼリーや他の好物で補ったり、主治医に相談し栄養剤を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はみがき、うがい、義歯洗浄・消毒等、入居者様の状況に合わせて、声かけ、見守り、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライドに配慮した声かけ誘導をしている。排泄のサインや行動を察知し、随時支援する。	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握しプライドに配慮して声かけ誘導している。排泄したい様子や行動などで便意を察しトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テーブルにお茶の入ったやかんを常時置きいつでも飲めるようにしている。ラジオ体操やレクリエーションを取り入れ身体を動かすように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に曜日や時間を決めず、できるだけご希望を取り入れゆっくり入浴して頂いている。入浴を嫌がられる場合は、時間をおいて再度声かけをする。	特に曜日や時間を決めずに出来るだけ利用者の希望によって入浴してもらっている。入浴を嫌がる人には、暫く時間をおいてすすめるなどの対応をとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、リビングでゆったりくつろいで頂き、その後居室へ誘導している。眠れない時は温かい飲み物をお出しし、会話するなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬の対処は日誌や連絡ノートに記載し、全員が必ず確認し、把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を生かして、ご本人のやる気を引き出し役割を分担して頂き、感謝の言葉を伝えている。外出や行事に参加して頂き楽しみをもってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、その都度対応している。ご希望がない場合も積極的に散歩やドライブにお誘いし外出支援を行っている。	利用者から外出の希望があれば、希望に沿ってホーム周辺の道路を歩くようにしており、それ以外にも積極的に散歩やドライブに誘って戸外へ出る機会をつくっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て職員が金銭管理を行っているが、本人の希望で買い物に出掛けた際は能力に応じてなるべく支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があれば電話し直接話して頂いている。特変あればその都度連絡している。希望のない方も家族様へ月に一度、状態や行事について便りを送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節ごとに手作りの貼り絵や行事の写真を飾ったり、植物を置いたりしている。ベランダには季節の野菜を植えて皆で育て収穫を楽しんでいる。	共同室には手作りの多様な貼り絵や行事の写真などを飾り、また窓からは自然風景が眺められ梅の花などで季節を感じることができる。また室温や明るさ、職員の声のトーンも適当と感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルの他にソファも配置しており、好きな場所でくつろいで頂いている。一人になりたい時は居室に戻り休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様全員に、使い慣れたものや好みのものをお持ち頂き、それぞれの思い出の品やご家族の写真、手作りの作品を飾っている。	居室には人にもよるが、壁面に手作りの貼り絵をはり、また家族の写真や造花を飾り、家族がなじみの家具を持ち込んだりして、本人にとって居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の状態にあわせて、必要な場所に手すりを付けたり、家具やポータブルトイレの設置をしている。		